

平成25年度第1回経営工学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

- I. 日時：平成25年10月31日（木）18：00～20：00
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局 会議室
- III. 出席者：渡邊委員長、井上委員、玉木委員、水野委員、細野委員、中島委員、佐々木委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 議事内容

1. 平成25年度の活動計画と大学改革に向けた取り組みについて

- ・平成25年度は、2回開催し、能動的学修の実現に向けてICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発、今後一層研究を進めるための検討を行う。サイバーFD研究員の意見を踏まえて見直しを行い、教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現への取り組みを研究することになっている。

2. 教育改善モデルへの意見と検討について

7月から9月にかけて実施した教育改善モデルのアンケートには7名の教員から意見がよせられ、その意見に対して以下の検討が行われた。

- ・経営工学の範囲の問題で、到達目標について企業や組織体としていることを人など広く考えてはどうかの意見があり、学士力の考察3行目で「経営上の」を削除した方が良いか検討することとした。
- ・経営工学は、情報科学や情報工学などどこが違うのかの意見があった。経営工学は道具として使えるものを利用すること、相互に関連することの理解もあり、ビジネスが変わり、取り上げるものも変わってくる。これからの経営工学や10、20年先への提案として方向が見いだせているか。管理技術の一部として活用し、情報は固有技術をしている。情報をつくる立場か、使う立場の区別も考えられる。
- ・また、企業や組織体の活動システムに対応する情報システムが必要でどのようにデザインするのかインターフェース部分で使う、評価する側にあたる。システムの言葉の範囲の一つとしては人工物を指す。
- ・そして、コンセプト、テリトリを広く解釈できないか、社会システム系として大学だけでないキャリアパスの実務を行っている人につなげること。経営工学とはの部分振り返ると、個人の行動科学も入るのではないか。
- ・リスクなどについてモデル化などの技術が必要で、経営工学ではだれでもできるように、保障・手順をあたえることであり、仕事のやり方を見えるように設計すること。
- ・そのことから、経営工学のイメージとして教員、学生にも伝わるものとして見直しを行う。到達目標1から4を図にしたり、英語にしたりして整理を行うなど、経営工学について業界や事例含めて図で表現を検討する。
- ・到達目標2の説明部分では、科学的アプローチを「科学的・工学的アプローチ」に変更することにした。
- ・データ解析や統計分析などが不足している意見から、到達目標2の到達度③データ処理技術について理解できるを見直すことにした。

3. 大学改革に向けた取り組みについて

- ・中央教育審議会の学長アンケートから、学生の基礎知識や自ら学ぶ能力の不足、ポートフォリオでの学修行動の把握、事前事後学修へシラバスでの提示、教養と専門を融合したFDなどが求められている。
- ・教育再生実行会議の三次提案から、教育方法の質的転換、イノベーション創出で理系人材の育成、学修時間の増加・可視化、組織的授業マネジメントの改善、社会人の学び直しなどが求められている。
- ・教育振興基本計画では、自立性をともなった学修、教学システムの整備、評価の改善などと補助金の配分を含めて主体的な学び、教育の質的展開への取り組みの改革が求められている。
- ・学ぶ意欲さえあればNetで大学レベルの講義が受講できるMOOCが世界中で現在800万人が学んでいる。日本でもJMOOCが来年から反転授業も含めた取組みとして開始される。

V. 今後のスケジュール

- ・経営工学とはを図として表現した経営工学のわかりやすい説明を追加すること。
- ・次回の委員会は1月16日（木）18時に開催する予定とした。